

## 甌島近海およびソロモン海で採集された トウガタガイ科イトカケギリ属貝類の記録

三浦知之

〒 880-0035 宮崎市下北方町平田

### Abstract

A pyramidellid mollusks of the genus *Turbonilla* was recorded from West off Koshiki island, Kyushu, in a depth of 140 m. This species resembles some known deep-sea species, such as *T. pucea* Okutani, 1964 and *T. corgani* Okutani, 1968. The newly recorded species differs from these species in having two yellow color bands on their whorls. A dead shell of another species from Solomon Sea in a depth of 293 m was also examined and identified as *Turbonilla dani* Peñas & Rolán, 2010.

### はじめに

主に宮崎県と鹿児島県の海岸や汽水域の貝類を調査しているが、トウガタガイ科は多様性が高く、継続的に調査している（三浦, 2021 など）。その採集標本を宮崎県総合博物館に登録するため、整理を行っているが、本稿では鹿児島県甌島沖で採集されたトウガタガイ科巻き貝 1 種を報告するとともに、形態の類似している同属のソロモン海の死殻標本についても記録する。

### 材料と方法

1987 年 6 月に鹿児島大学水産学部の練習船南星丸の Smith-McIntyer 採泥器で甌島沖水深 140 m で底生生物の採集を行った。甌島近海の底質を船上で 0.5 mm メッシュで篩い、10% 海水ホルマリンで固定した後、海水と淡水で洗浄し、70% Alcohol に保存し、ソーティングした。標本は超音波洗浄機を用いて付着物を除いて、殻の形態を観察した。また、インドネシアのソロモン海水深

293 m から得られた環形動物の棲管標本に混じっていた同属の死殻標本を比較検討した。

**トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840**

**Turbonillinae Bronn, 1849**

***Turbonilla* Risso, 1826**

(新称) キオビワタゾコイトカケギリ *Turbonilla* sp.  
(Figs. 1A–C)

*Turbonilla* aff. *corgani* Hasegawa & Okutani, 2011,  
pp. 128–130, Fig. 4, as Watazoko-itokake-giri

**採集記録** 1987 年 6 月 4 日鹿児島県下甌島東沖, 31°40.4'N 129°41.4'E, 水深 140 m, 鹿児島大学水産学部練習船南星丸航海 87-05, Station 140B (1 個体)

**形態・分布・生態** 甌島沖水深 140 m から得られた 1 個体は、殻高 4.0 mm, 殻幅 1.3 mm であった (Fig. 1A)。胎殻は、2.5 階で殻軸に対して約 85° 異旋する (Fig. 1C)。後生殻の螺層は 8 階で、殻はやや厚く、白色半透明で、軟体部が透けて見える。螺層中央および縫合に近い螺層下端に淡い黄褐色の 2 色帯があり、体層では 2 本が明瞭に確認できる。螺層の側縁は中央の色帯の部分がやや窪み、上下が相対的に張り出す。縫合は深く括れ、螺層の境界が明瞭である。縦肋は、いずれの螺層でもほぼ体軸方向で、体層では数本の縦肋が 10° 程度傾くこともある。縦肋の中央はやや細いが、ほぼ等幅で、直線的である。体層では 17 本で、

Miura, T. 2023. Record on two pyramidellid mollusk species, *Turbonilla* aff. *corgani* Okutani, 1968 and *Turbonilla dani* Peñas & Rolán, 2010. *Nature of Kagoshima* 50: 61–64.

✉ MT: Hirata, Shimokitakata-machi, Miyazaki, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 14 August 2023; published online: 21 August 2023; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_050/050-012.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_050/050-012.pdf)

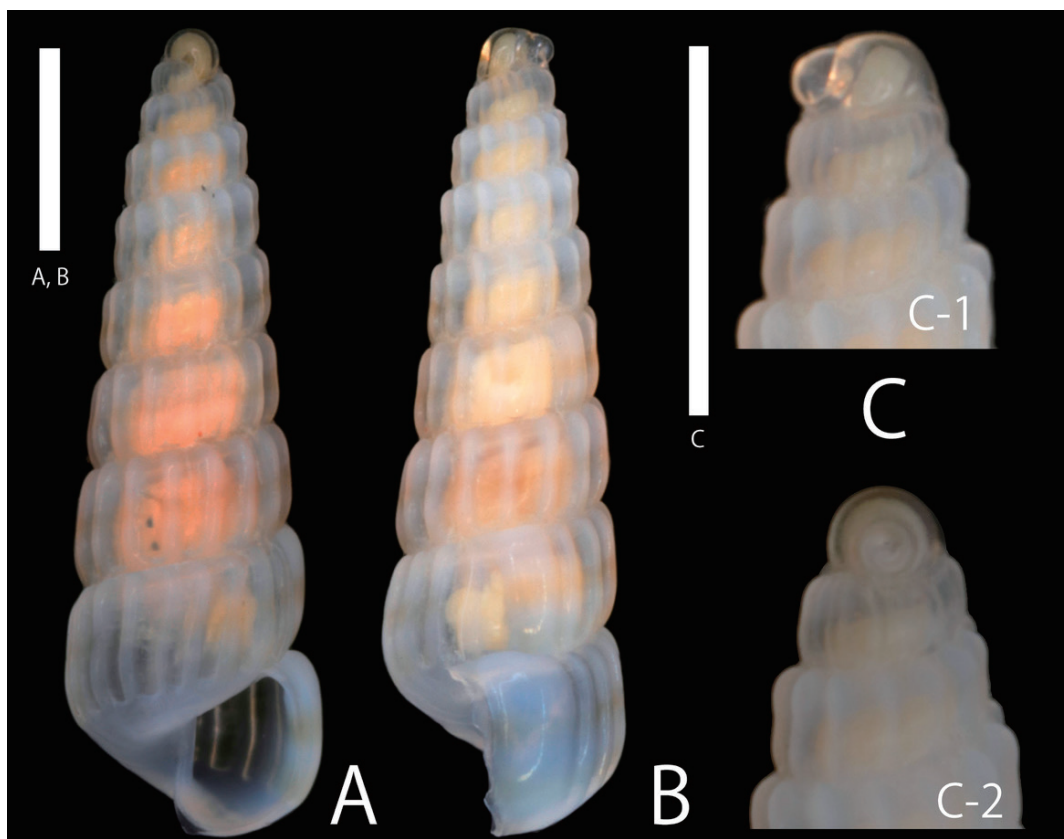


Fig. 1. *Turbonilla* aff. *corgani* Okutani, 1968 collected east off Kaoshiki-jima isls in a depth of 154m, Kagoshima Prefecture: A. Whole shell, ventral view; B. The same, lateral view; C. Enlarged apex of the same, showing the protoconch in tow directions. Scales for A, B & C= 1 mm.

体層の殻口近くと次体層の部位で融合・肥厚し、縦張肋になる (Fig. 1B)。螺層周縁で消失するため、殻口の内側から末端縁が識別できる。縦肋より肋間がやや広いが、ほぼ同じ幅で、初生の数層では肋間が明らかに広い (Figs. 1A, B)。肋間には6本のやや不等間隔の螺条がある。殻口は扇形で、直線的な内唇と殻底のラインが角張り、外唇は円弧状。軸壁は弱い。

軟体部は殻を通して楕円形の眼が1対確認でき、眼2個分程度離れて位置する。

ワタゾコイトカケギリは、当初 *Turbonilla punicea* Okutani (1964) とされたが、新参シノニムであったために、*Turbonilla corgani* Okutani (1968) に変更されたことが、Hasegawa & Okutani (2011) により報告されている。その際に新和名 Watazoko-itokake-giri (ワタゾコイトカケギリ) が付けられた。また、堀 (2017) により学名不祥の

まま、ワダツミイトカケギリの名称でも報告された。これらはいずれも同一種で、キオビワタゾコイトカケギリにもよく似ている。しかし、螺層中央および周縁末端には淡い黄色の2本の色帯がある本種とは明らかに異なる。ワタゾコイトカケギリのタイプでは原核が欠落し、本種との違いはわからない。縦肋および縦肋間の生じ方は両種でよく似ているが、キオビワタゾコイトカケギリでは、次体層 (第7螺層) と体層に縦張肋が形成され、ワタゾコイトカケギリばかりでなく、形態のよく似たソロモン海深海産の *Turbonilla terminuslevis* Peñas & Rolán, 2010 などとも異なる。

(新称) ソロモンイトカケギリ *Turbonilla danii*  
Peñas & Rolán, 2010  
(Figs. 2A, B)

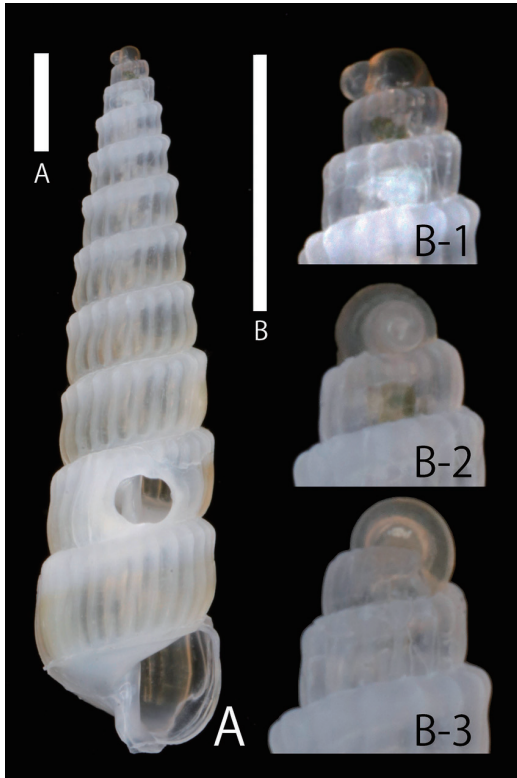


Fig. 2. *Turbonilla danii* Peñas & Rolán, 2010 collected in Solomon Sea, South off Slawesi in a depth of 293 m: A. Whole shell, ventral view; B. Enlarged apex of the same, showing the protoconch in three directions. Scales for A & B = 1 mm.

***Turbonilla danii*** Peñas & Rolán, 2010, pp. 42–44, Figs. 19A–F.

**採集記録** 1985年2月12日ソロモン海水深293 m, 5°48.9'S 119°37.2'E, SM 採泥器 (1死殻)

**形態・分布・生態** 環形動物の棲管に付着して混獲された本種の死殻標本を検討した。水深293 mから得られた標本は、殻高7.2 mm, 殻幅1.9 mmであった (Fig. 1A)。胎殻は、2.5階で殻軸に対して90°異旋する。後生殻の螺層は10階で、殻はやや厚く、白色半透明で、内部が透けて見える。螺層中央上部1/3付近から下端に薄茶色の色帯が確認できる。螺層の側縁は色帯の始まる部分がやや大きく窪み、上側の肩が強く張り出し、下側は窪みからの膨らみとして確認できる。縫合は深く括れ、螺層の境界が明瞭である。縦肋は、いずれの螺層でもほぼ殻軸方向で、傾きは5°程度までである。縦肋はほぼ直線的で、縫合付近で殻

方向にわずかに曲がる。縦肋は中央部が細く、特に上側で太く、螺層の肩を形成する。体層では26本で、螺層周縁で消失するため、殻口の内側から末端縁が識別できる。縦肋より肋間が狭いか、ほぼ同じ幅で、初生の数層では肋間が明らかに広い (Figs. 1A, B)。螺層によってはわずかに螺条が肋間に確認できる部分もあるが、ほぼ見られない。殻口は扇形で、直線的な内唇と殻底のラインが角張り、外唇は円弧状。軸壁は弱い。

保存されていた混獲標本は、キオワタゾコイトカケギリやワタゾコイトカケギリとよく似て、螺層側縁の窪みと肩の張りだしが見られたため、本稿で比較に用いた。本種は肩の張りだしが極めて強く、上記の2種とは明らかに区別される。他方、肩の張り出しが見られる点では、ユウガイトカケギリ *Turbonilla someiensis* Nomura, 1939, カタヒジイトカケギリ *Turbonilla soboensis* Nomura, 1938 やレンゲザイクイトカケギリ *T. ambulatia* sensu Hori, 2017 とも形態が類似するが、明瞭な螺条が見られる点 (堀, 2017) で異なっている。

本稿では2種を *Turbonilla* 属として報告したが、WoRMS (2023) では *Asmunda* Dall & Bartsch, 1904 を有効としている。この属は、殻底の螺肋 (キール) を持ち、縦肋が強く、肋間に螺条を持たないことで特徴づけられる (Dall & Bartsch, 1904)。この属には *Asmunda ambulatia* (Laseron, 1951) (堀, 2017 によりレンゲザイクイトカケギリとされる) および *Asmunda exilissima* (Nomura, 1938) (堀, 2017 によりカタヒジイトカケギリと同種とされる) が含まれる (WoRMS, 2023)。しかしながら、堀 (2017) のレンゲザイクイトカケギリには肋間に螺条があり、*Asmunda* 属の特徴および *A. ambulatia* (Laseron, 1951) の原記載とも一致しない。また、カタヒジイトカケギリとされる *Turbonilla soboensis* Nomura, 1938 の殻底は縦肋やキールがなく、*T. exilissima* Nomura, 1938 の殻底では縦肋の延長はあるが、キールはないとされている (Nomura, 1938)。これらの混乱があるため、本稿では堀 (2017) の扱いに順じることとし、*Asmunda* 属はあえて採用しなかった。もし、この属が有効なら、本稿で紹介した2種の属位も検討

し直す必要があると考える。

## 引用文献

- Dall, W.H.; Bartsch, P. 1904. Synopsis of the genera, subgenera and sections of the family Pyramidellidae. Proceedings of the Biological Society of Washington, 17: 1–16.
- Hasegawa, K. & T. Okutani, 2011. A review of bathyal shell-bearing gastropods in Sagami Bay. Memoire of National Museum of Natural Sciences, Tokyo. 47: 97–144.
- 堀 成夫, 2017: トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 702–729.
- Laseron, C. 1951. The New South Wales Pyramidellidae and the genus Mathilda. Records of the Australian Museum, 22(4): 298–334.
- 三浦知之, 2021. 南九州で記録されたトウガタガイ科貝類 – ホソイトカケギリ, クラエノハマイトカケギリおよびチャイロイトカケギリ –. Nature of Kagoshima, 48: 33–46.
- Nomura, S., 1938. The third report on Pyramidellidae based upon the specimens preserved in the collection of the Saito Ho-on Kai Museum. Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletins, 16: 1–88.
- Nomura, S., 1939. Summary of the fossil and recent Japanese Pyramidellidae, with the descriptions of several new species. In: Jubilee Publication in the Commemoration of Professor H. Yabe, M.I.A. Sixtieth Birthday, 1: 119–156.
- Okutani, T., 1964. Report on the archibenthal and abyssal gastropod Mollusca mainly collected from Sagami Bay and adjacent waters by the R.V. Soyo-Maru during the years 1955–1963. Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo, Section II, 15(3): 371–447.
- Peñas, A. & Rolán, E. 2010. Deep water Pyramidelloidea of the Tropical South Pacific: Turbonilla and related genera. Mémoires du Muséum national d'Histoire naturelle, 200: 1–436.
- WoRMS, 2023. <<http://www.marinespecies.org>> (2023.7.29).